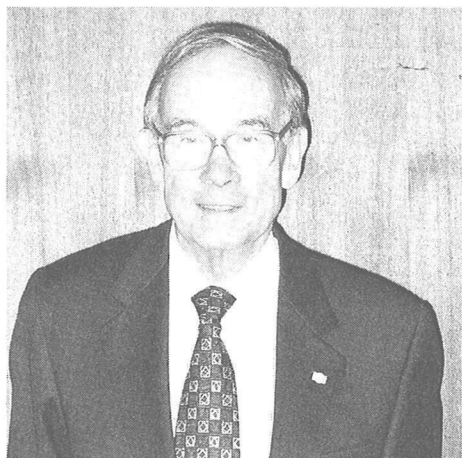


‘日本数学会関孝和賞’

第二回受賞者 フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授



社団法人日本数学会は、1994年度に、数学の業績以外で数学の発展に寄与し、学術文化の向上発展に著しい貢献をした個人および団体の業績を顕彰し、併せて日本数学会の活動を広く世に知らせるために、日本数学会関孝和賞を制定した。この度、マックス・プランク数学研究所前所長、フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授を第二回受賞者とすることを決めた。

ヒルツェブルッフ教授は、若手研究者を長期的に招聘し、多くの優れた数学者を育てる目的で1969年より、ドイツ学術振興会の援助によりボン大学に特別研究領域 40「理論数学」を創設した。特別研究領域 40の

招待により長期間ボン大学に滞在し研究を行った日本人数学者は30名を越える。

その後、1980年にはボンにマックス・プランク数学研究所を創設し、所長として1995年に定年退官されるまでこの職にあった。ヒルツェブルッフ教授はマックス・プランク数学研究所にも海外から若手数学者を積極的に招聘し、日本からこの機関を訪問し研究に従事した数学者は百名以上のほる。

このように多くの数学者が、ボン大学、マックス・プランク数学研究所に滞在し、ヒルツェブルッフ教授の指導を受け、諸外国の数学者と幅広い交流のなかで研究を行ったことは、日本の数学の発展にとって極めて重要な役割を果たした。

フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授のこのような長年にわたる功績は、日本のみならず世界の数学の進展に大きく貢献するものであり、日本数学会関孝和賞にふさわしいものである。

社団法人日本数学会
1995年度理事会

日本数学会関孝和賞受賞者 Friedrich Hirzebruch 教授の業績

上野健爾

ヒルツェブルッフ教授はリーマン・ロッホ・ヒルツェブルッフの定理をはじめとしてトポロジー、代数幾何学で重要な業績を挙げた今世紀を代表する数学者の一人で

あるが、それだけにとどまらずボン大学に特別研究領域 40「理論数学」を、その後マックス・プランク数学研究所を創設され、全世界から若手数学者を積極的に招待し

て、数学の進展に大きく貢献された。

ヒルツェブルッフ教授によれば、プリンストン高等研究所での午後のお茶の時間のたびごとに、研究所に滞在している数学者のほとんどが参加し、前の日に発見した最新の補題を皆に説明し、オープンに議論する雰囲気のスバラしさを体験し、また、世界各国から来ている異なる分野の数学者が交流することによって、いかに数学が発展していくかを目のあたりにして、プリンストン研究所のような研究所をドイツにも作りたいとの願いが、ボン大学の特別研究領域 40「理論数学」、その後マックス・プランク数学研究所の創設へとつながったとのことである。

ヒルツェブルッフ教授は1927年ドイツに生まれ、第二次世界大戦中に高校時代をすごされ、戦後ミュンスター大学とスイスのチューリッヒ工科大学で学ばれ、エルランゲン大学助手、プリンストン高等研究所研究員等を経て、1956年ボン大学の教授に就任された。1957年にはボン大学で Arbeitstagung を始められた。Arbeitstagung は毎年6月にボン大学で開催され、最新の数学上の成果を発表する場として、ヨーロッパの数学界で大切な役割を果たしてきた。1969年には、ドイツ学術振興会 (DFG) の援助を受けて、特別研究領域 40 (SFB 40)「理論数学」をボン大学に作られ、毎年40名近くの客員研究者を世界各国から受け入れられた。さらに、SFB 40の成果をもとに1982年にマックス・プランク数学研究所をボンに設立され、その初代所長として1995年定年退官されるまで国際交流を通して数学の進展に尽力された。

この25年間にヒルツェブルッフ教授によってボン大学、マックス・プランク数学研究所へ1年以上の長期にわたって招待された日本人数学者の数は100名以上のほり、短期間の招待者を含めると150名以上になる。

特に、わが国の若手の数学者を積極的に招待され、自由な研究時間と世界各国からやってきた数学者との交流を通してわが国の数学の進展にも大きく貢献された。

また、日本数学会の申請に基づき、1996年秋の叙勲で勲二等瑞宝章がヒルツェブルッフ教授に贈られた。11月6日文部省で行われた伝達式の席上、ヒルツェブルッフ教授は「ボンに滞在し日独の国際交流に尽くした日独の数学者とその交流を支えた研究所の事務職員、および交流を支えていただいたドイツ学術振興会とマックス・プランク協会と共にこの勲章を受けたい」と人柄のにじみでる答辞を述べられたことを付け加えておきたい。

ところで、戦後、我が国の多くの数学者がプリンストンの高等研究所、フランス給費留学生、70年代以降はさらにボン大学の SFB 40、マックス・プランク数学研究所に招待され研究を行い、多くの恩恵を受けてきた。残念なことに、我が国の数学者の多くはこうした恩恵を受けることには熱心でも、他の国の若手数学者を招いて数学の進展に寄与しようという意識が極めて希薄であるといわざるを得ない。多くの優れた数学上の業績を挙げながら、わが国では、プリンストン型の研究所を作ることさえまだできていない。さらに残念なことは、国際研究所としての役割も果たしている国内共同利用研究所である数理解析研究所ではお茶の時間さえなく、滞在した外国人数学者から不満の声を聞くことがある。

戦後、我が国が諸外国から受けた多くの援助に答える道は、ヒルツェブルッフ教授のように、国際交流に尽力された方々や機関を顕彰するにとどまらず、諸外国から若手数学者を招き、世界の数学の進展につくす国際研究所をつくることにあろう。

(1997年2月7日提出)

(うえの けんじ・京都大学理学部)

第一回日本数学会賞建部賢弘賞受賞者紹介

編集 部

日本数学会 50 周年記念講演会が、1996年11月9日、東京大学教養部講堂で開催され、第一回日本数学会賞建部賢弘賞が9名の方々に贈られました。受賞者の方々の紹介を行います。50音順で紹介します。(敬称略)